

令和五年九月三日 眞実の光みち会館外参道そとさんどう用地清めの儀

神 示

神は 運命を通し 社会よを見詰め 調和する世界へと常に導く  
なれど 人々ひとは 形を求め 姿を整えんとする  
ここに 社会がまとまらず 環境を乱し 調和を欠く  
互いの運命は重ならず 形を求め動くほど 心は離れてゆく  
信者に申す

こたびの参道を通す動きは

神の手の中 調和を求めて形が整う

神の町 関わる全ての人々ひとの思いが重なり

ますます多くの人々ひとが心救われ

多くの人々ひとが集まり 発展してゆく

使者供丸齋が見詰めた大神殿――

いよいよ神の町に 参道を通して

その眞実の運命が示されてゆく

直使供丸姫の救世おも愛が 重なり見守り

ますますこの神の町に人々ひとが集う

使者供丸光を通し

神は 人生の眞実「眞理」を社会に示す

職員 係は 心を一つに重ね 人類救世に心向けるべし

参道が神の町に通り

ますます神示教会は 救世の力を増してゆく

## 神 示

社会の姿は 大きく変わる

信者は 変化に気持ちのみ込まれぬように

今日こそ「教え」を大切に 軽んじてはいけない

なぜ 神の町に外参道が通るのか

今日 多くの人々が

社会の流れに乗れずに 「人生」に迷いを深めている

今日のままでは

多くの人々が 変化にのみ込まれ 人生に悔いを残す

「生きる」意味も悟れぬままに

「心の道」を断ち切り 悔いを残す

参道は 多くの人々が 神魂へ心向け

「真実の光」へつながる救世の道

こたびの動きをもって

ますます多くの人々の心が 神示教会に向かう

職員・係は 心重ね 一つになって

神示教会の価値を 自信を持って語るべし

その心が 「希望の光」をますます通し

我と我が家族の人生を 守り 救う

同時に 多くの人々が 社会の真実に気付き

変化にのみれず 救われる

社会の変化 全てが 神の手の中

「運命」に導かれて「生きる」人々は

守られ 救われる

人々が起こす変化に乗れば

社会はますます迷いを深め 悔いを残すと悟るべし

神 示

神魂の時代を迎え 今日

「教え」に生きる人間は皆

「運命」の力に守られて 悔いなき人生を歩み抜ける

職員・係は 心を重ね 一つになって

悔いなき人生歩める環境がある 眞実を 伝えてほしい

今日の神示教会には

救いを求める人々の心を

神へとつなぎ 実体を高める環境がある

力の大きさを知る職員・係は

自信と誇りを持って

神示教会・「眞理」のある環境の価値を伝えてほしい

なぜ 今日 外参道が通るのか 分かるかや

人間が行うのではない

神が今日を導いている

多くの人々が救われるように 環境を社会に開いていく

—— 神示教会に 職員 係・信者と 籍ある今日を 感謝する ——

この思いが 「光」を大きく開ける

神 示

こたびの動きをもって

ますます神示教会は この地に 救世の運命を張り

直使の偉光に多くの人々が救われてゆく

「眞理」なき 世界の姿を見てごらん

「眞理」が 信者・世の人に 伝わるところに

氣付き 悟りを深めて 多くの人々が救われる

迎える終日 信者は 直使の偉光に心包まれ

神と歩みし人生に 深い安堵の思いを味わう